

2018年4月15日 週報巻頭言

伝道者パウロ

「もし初代教会時代にパウロがいなかったら」と考えたことがおありでしょうか？

信仰者の生き方、教会の在り方、・・・というように、さまざまな課題が浮かんできます。彼は諸教会へ手紙を書きました。今考えると、この手紙がどんなに大切なことが書かれているか、驚くばかりです。キリスト教の信仰の内容、生き方、他者との交わり、というように多くの課題が含まれています。パウロ自身が背負った課題でもありました。諸問題をどのようにして解決するのか、キリスト者がこの世において、いかに証しを立てていくのか、という大切な問題もありました。特に諸教会において起こった諸問題をいかに解決していくのか、重荷がパウロの肩にかかっていました。

パウロは熱心なユダヤ教徒でした(フィリッピ3:5)。学者ガマリエルのもとで律法について学びました(使徒22:3)。パウロは使徒言行録第22章3～5節において自からのことについて告白しています。

パウロはイエス・キリストの十字架をいかにして信じるにいたったのでしょうか？

問いを持ちつつさらに彼の手紙を読み続けていきます。

(山下誠也)